

企画展示のご紹介

The カマキリ ～ユニークな昆虫狩人～

- 期間：10月9日（土）～11月7日（日）
- 会場：こんちゅう館内 多目的ホール
- 内容：近年、人気上昇中のカマキリを特集します！広島産全8種と、当館初公開となる外国産種を合わせた約20種の生体を展示します。また、生態や飼育方法なども詳しく解説します。標本や博物画、生薬、フィギュアなど、関連グッズも展示します。
もちろんコロナ感染症対策もバッチリ！会場に来て、カマキリ博士になってほしいよ！（佐藤）



イベント案内

- ★ 10月
 - ① バックヤードガイド「樹木園ツアー」：2日（土） 13：30～14：30
 - ② クリップバッタ選手権：10日（日）
1回目/10：00～11：30、2回目/13：00～14：30
 - ③ 虫さがし「ドングリと虫」：17日（日） 10：30～11：30
 - ④ ハロウィン「蟲の館」：30日（土）、31日（日）
各日とも 1回目/10：00～11：30、2回目/13：00～14：30
 - ★ 11月
 - ⑤ バックヤードガイド「飼育室ツアー」：6日（土） 13：30～14：30
 - ⑥ 虫講座「カマキリ」：7日（日） 13：30～14：30
 - ⑦ 落ち葉・木の実であそぼう：20日（土）、23日（祝・火）
各日とも 1回目/10：00～11：30、2回目/13：00～14：30
 - ⑧ バックヤードガイド「飼育室ツアー」：27日（土） 13：30～14：30
- ※ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止・変更などの可能性があります。
 ※ ②④以外は、すべて「事前申し込み制」です。
 ※ 「事前申し込み制」イベントの募集定員数は、各回とも25名程度。応募多数の場合は抽選となります。
 ※ 申し込み方法、締切日等の詳細につきましては、こんちゅう館のホームページをご覧ください。

こんちゅう館 News 新シリーズ Vol.6 秋号 2021年9月1日

編集/発行 広島市森林公園 こんちゅう館

〒732-0036 広島市東区福田町字藤ヶ丸 10173 番地

TEL (082)899-8964 FAX (082)899-8233 HP <http://www.hiro-kon.jp/>

こんちゅう館 News

み～んな主役！！ 虫の館のスターたち ⑥

シリアゲカマキリ *Parasphendale affinis*

カマキリ科 カマキリ目



威嚇のポーズをとる雌成虫

若齢幼虫

雌成虫の体長が約60mmの、ずんぐりとした中型種。ケニア、タンザニアなどアフリカ東部に分布しています。雌成虫の翅は短く、腹部の中ほどまでしか達しません。和名は、露出した腹部の後半部を常に上方に反らしていることに由来します。雌成虫は、危険を感じると前脚を振りかざし、翅を垂直に開きながら体を反らせます。襲ってくる天敵に対し、体を精一杯大きく見せようとするのです。こうした威嚇行動は、ハラビロカマキリやオオカマキリなどにも見られます。

飼育の際、気を付けているのが、餌となる生きた昆虫のサイズです。確実に食事をさせるには、前脚で捕獲（保持）できる程度の大きさの昆虫を与える必要があります。小さい幼虫にはショウジョウバエやコオロギの小さな幼虫を与えます。中・大型の幼虫や成虫には、コオロギやゴキブリを食べさせます。また、ときには「おご馳走」と称して、飼育室の灯りに飛来した中型のガをあげることもあります。アフリカのカマキリですが、和食は口に合うのかな？（松尾）

キタキチョウ *Eurema mandarina*

シロチョウ科 チョウ目



こんちゅう館では、本種の幼虫の餌としてハギ（マメ科）を与えています。ハギは、水はけのよい土手や荒地などに自生し、鉢植えにしてもよく育ちます。ただ、冬になると葉が枯れるため、冬期に食草として利用するには、落葉を防ぐ工夫が必要です。晩秋の頃、根際から切り詰めると、やがて小さな新芽が出てきます。それを温室に入れ、暖かくして育てるのです。「まだ冬になってないみたい…」ハギにそう思わせて、成長を促す作戦です。通年の利用を実現するには、ちょっとした工夫が必要なのです。

本種は、こんちゅう館の周辺でも野生の個体をよく見かけます。それらが、餌として大切に栽培しているハギに卵を産み付け、孵化した幼虫が葉を食べてしまうことがあります。そんなときは、幼虫の一部を飼育室で育て、「お食事代」のかわりにパピヨンドームで、可憐な舞いを披露してもらいます。ドーム内に黄色のチョウは本種だけ。小さいけれど、貴重な存在です。（佐藤）

残暑もそろそろ和らいでくると、水辺ではキセルアザミの花の蜜を求めて、多様な虫たちが集まります。また、水中では、春に生まれたクロスジギンヤンマの若いヤゴがすくすくと育っています。山地の高所に避暑に行っていたアカトンボ類が戻ってくるのもこの季節です。

高く澄んだ秋空の下で管理作業をしていると、ツルヨシの葉上に、緑色の細長いイモムシを見かけることがあります。イネ科の植物を食べるクロコノマチョウの幼虫です。濃褐色の頭部には2本の突起があり、正面から見るとまるでウサギの耳のようです。とても食欲旺盛で、硬いツルヨシの葉をむしゃむしゃと食べ進みます。ユニークな姿をした、職員イチオシのイモムシなのですが、最近は観察会を開催できず、紹介する機会がないのが残念です。（逸見）



こんちゅう館の季節の虫

ハヤシノウマオイ *Hexacentrus hareyamai*

キリギリス科 バッタ目

「スィー—ツチョン」、やや間延びしたよく響く声で鳴きます。この鳴き声が、馬子が馬を追い立てる時に発する声に似ることから、「馬追い虫＝ウマオイ」と呼ばれるようになりました。

雑食性ですが、成長するにつれ肉食性が強まり、前脚と中脚に生えている棘を使って、小さな昆虫などを捕食します。

こんちゅう館の周辺では、林縁に見られますが、個体数は多くありません。茂みの中で鳴くので姿を見つけにくく、そのうえとても俊敏なため、捕まえるのは一苦労です。（逸見）



雄